

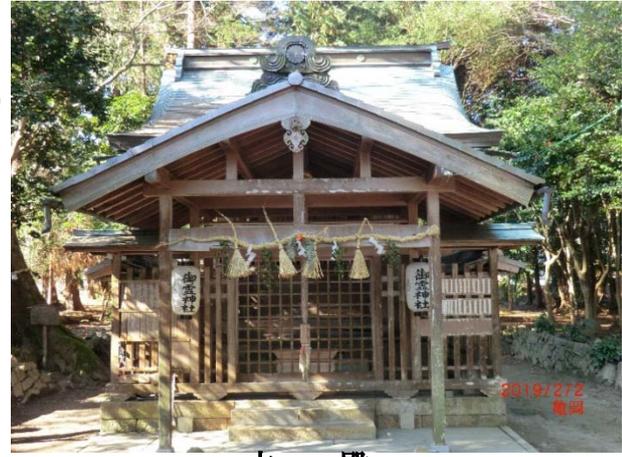
ゴ リ ヨ ウ ジ ャ
御 靈 神 社
【旧 御靈大明神】

所在地：亀岡市葎田野町佐伯齋ノ神41番地

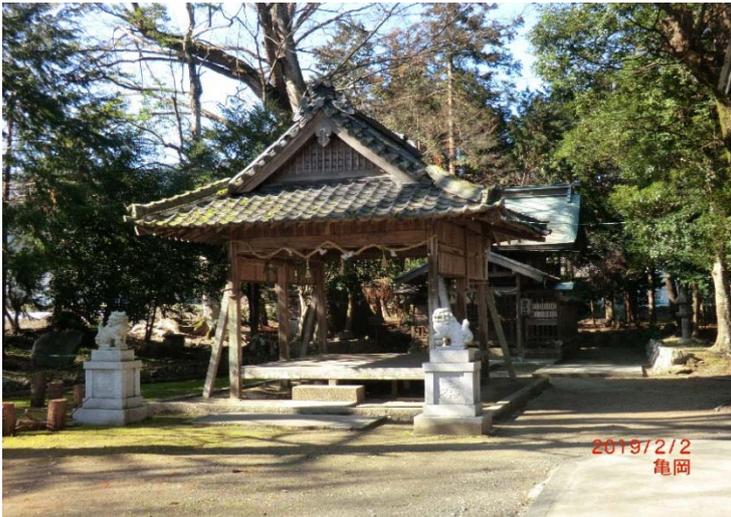
本神社の御祭神は^{おおやまとねこひこくにくるのすめらみこと}大日本根子彦国牽天皇（第八代、孝元天皇）^{こうげんてんのう}と異母兄弟にあたる^{ひこいさせりひこのみこと}彦五十狭芹彦命（吉備津彦命）^{きびつひこのみこと}の二所皇大神が祀られています。

この内、吉備津彦命は四道將軍の一人として中国地方に派遣された方です。

なお、隣接する^{かいがてんのう}曾我部町穴太に鎮座する小幡神社には^{ひこいませのみこと}孝元天皇の子供である第九代、開化天皇と、^{おまたのみこと}その子供の彦巫王、^{たんばみちめしのみこと}孫の小俣王（四道將軍の一人で丹波道主命）の神々が祀られている。



本殿



拝殿（手前）・本殿（奥）

創祀は平安時代の初め平城天皇の大同元年（806年）と伝えられ、また^{じょうがん}貞元五年（863年）に起こった天災により悪疫が蔓延して、その悪疫の除災を願って怨霊を慰め、祈願したとも伝えます。この時、京都の御所清涼殿から、五基の灯籠が下賜されたのが佐伯灯籠の起源ともいわれ、勅使が参拝したと伝えます。いつの頃から、その勅使の参向も途絶えていましたが^{かんえい}寛永二年（1625年）に後水尾天皇が古式先祭により勅祭を復活しました。しかし明和三年（1770年）以後は^{かんぎ}亀山藩主が勅使代理を勤めるのが恒例となり、明治維新まで続いたといわれている。

別の社伝では^{ひろはただいなごん}寛喜元年（1229年）に広幡大納言が

勅使として参向し、五基の神灯籠を下賜したのが先例となり、以後毎年大祭を行うようになったとも伝えます。

境内には亀岡の名木或いは準名木に選定されているムクノキ、ケヤキ、タブノキ、イチョウ、オガタマノキ等の巨木が繁茂し、神木として守り伝えられている。特に本殿南側にあるムクノキは樹齢800年から1000年を超えるとも言われ、京都府屈指の巨木として、まさに神木ともいえる尊厳さをもって当社の盛衰を共に歩んだ生き証人としてそびえ、今もその歴史を語りかけている。
(H31.2現在：5本が亀岡の名木として指定)

なお、本神社の御祭神は京都府暫定登録有形文化財に登録された
(平成29年12月27日)



払戸

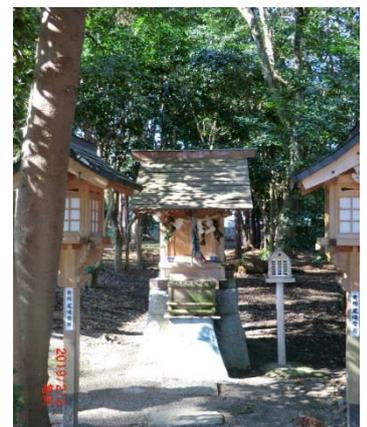


井戸

加賀大聖寺より古岸和尚が、苗秀寺に住職として来住、この神社の神水として井戸に文久二年（1862年）の詩文が掲げられている。



摂社 稻荷神社
(御祭神：宇賀之御魂神)



摂社 大川神社
(御祭神：保食命 五元神)